２／２０（木）の発表

報道発表資料の配付日時　２月２０日（木）

発表項目（行事名）	帯広保健所職員の「秩父宮妃結核予防保健看護功労賞」受賞について
概　　要	■帯広保健所 健康推進課長・吉田祐子（保健師・60 歳）が、公益財団法人結核予防会「秩父宮妃結核予防保健看護功労賞」を受賞。 ■結核予防に功績のあった保健師・看護師が対象で、今年度は全国で２名の保健師が受賞。 ■令和７年２月５日に岩手県盛岡市で開催された第 76 回結核予防全国大会の席上で、総裁秋篠宮皇嗣妃殿下から表彰を賜った。 １　秩父宮妃記念結核予防功労賞の趣旨 結核予防会名誉総裁秩父宮妃殿下のご遺贈金を原資として、結核予防に大きな功績のあった個人、団体を顕彰し、結核予防の一層の推進を図るために創設。 ２　功績概要 長きにわたり道立保健所保健師として、地域ＤＯＴＳ（直接服薬確認療法）の適切な実施等により患者の治療完遂を支援。支援を拒否されても、一貫して患者や家族の不安や戸惑いに寄り添い、家族や関係機関との調整に心を砕き根気強く信頼関係を構築。道内でも特に人材確保が困難な小規模保健所で長く係長・課長職として勤務し、保健師間の主体的な学習をサポートするなど後輩育成にも尽力。更に、第三次医療圏に結核病床がない十勝圏域において、患者が住み慣れた地域で治療が受けられる体制を目指し、関係各所を精力的に調整する姿勢は、保健師として他の模範となる。
参　　考	・　平成 17 年度以降、道立保健所保健師としては 10 人目、市町村保健師を含めると道内 13 人目の受賞です。 ・　かつては「国民病」と言われた結核ですが、医療の進歩や公衆衛生の向上により、現在では適切な治療により完治する病気となりました。 一方で、依然として我が国最大の慢性感染症であることには変わりなく「古くて新しい病」と言われており、十勝管内でも年間 20 人ほどの報告があることから、受賞報告を通じ、地域の皆様への啓発や、医療従事者等の関係者の皆様が、結核を再認識する機会になればと考えております。
報道（取材）に当たってのお願い	
他のクラブとの関係	~~同時配布~~ ~~同時レク~~ ~~記者レク~~
そ　の　他	
担　　当（連絡先）	北海道十勝総合振興局保健環境部保健行政室企画総務課（担当：熊谷） ＴＥＬ：０１５５－２６－９０７２（直通）